

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

Lotte Chemical Corporation（証券コード：-）

【変更】

外貨建長期発行体格付	A+	→	A
格付の見通し	ネガティブ	→	安定的

■格付事由

- (1) 韓国ロッテグループの化学会社。基礎化学事業では石油化学の上流製品から下流誘導品までを大規模に手掛けており、韓国の石油化学業界で主導的な地位にある。韓国外でも米国やマレーシアで同事業を展開するほか、現在、インドネシアでエチレン設備の新設計画（LINE プロジェクト）も進めている。また、近年は M&A や提携も通じ、成長領域での事業基盤強化を推進している。グループは韓国大手財閥の一つで、食品のほか、小売、化学、ホテル、建設などの事業を幅広く展開する。当社はグループの中核的位置付けの一社であり、資本面や人的構成などでグループとの関係は強い。ただ、上場会社として一定の独立性があることや事業面での関係性が薄いことなどを踏まえ、当社の格付では当社自身の信用力を反映させている。
- (2) 厳しい事業環境を受けて業績低迷が続いている。石油化学製品の需給がインバランスとなる中、基礎化学事業を主体とする事業構造のマイナス面が表れており、中国や韓国における設備新增設で中期的に同事業の収益力回復が制約を受ける懸念も強まっている。スペシャリティ事業では底堅く利益を確保しているものの、基礎化学事業の不振をカバーするほどではない。こうした状況を受けて当社では事業構造改革を進めているが、業績面で効果が出てくるまでにはしばらく時間がかかる可能性がある。また、キャッシュフロー創出力が低下する中、積極的な成長投資で有利子負債が増加しており、財務の柔軟性も低下している。以上を踏まえ、格付を引き下げた。ただ、事業リスクの高さに対しては相応の財務耐久力が確保されており、財務面の諸施策が進められていることを踏まえ、格付の見通しは「安定的」とした。事業ポートフォリオの高度化を進め、業績のボラティリティを抑制していけるかが、当面の注目点である。
- (3) 23/12 期の営業損益は 3,477 億ウォンの損失（22/12 期は 7,626 億ウォンの損失）と、赤字幅は縮小したものの 2 期連続で不採算を余儀なくされた。基礎化学事業の需要や製品スプレッドが軟調に推移したことに加え、成長投資で減価償却負担が増加したこともマイナス要因となった。24/12 期も通期で営業赤字となる可能性がある。同期第 2 四半期累計の営業損益は 2,460 億ウォンの損失となっており、前年同期（1,030 億ウォンの損失）に比べ、赤字幅は拡大している。引き続き、基礎化学事業の採算が厳しく推移しているほか、二次電池関連材料を手掛けるロッテエナジーマテリアルズ（23 年 3 月に連結子会社化）も、EV 市場の成長減速で業績貢献は限定的なものに留まる。25/12 期以降は石油化学製品の需要増加などで業績も持ち直しに向かうと考えられるが、現状、力強い回復は想定しにくい。
- (4) 24/12 期第 2 四半期末の純資産は約 20 兆ウォンとなっており、リスクバッファーとして十分な厚みを有する。また、同期末の純資産比率は 57.0%（23/12 期末 60.4%）と、健全な財務状況が維持されている。ただ、成長投資の資金負担が高まっており、純有利子負債（有利子負債-現預金）は 21/12 期末のネット・キャッシュ・ポジションから、24/12 期第 2 四半期末では 6.9 兆ウォンに増加している。当面、キャッシュフロー創出力を高めにくいと想定される中、LINE プロジェクトや二次電池関連材料の増産、水素関連事業などで高水準の投資が続く計画で、25/12 期末にかけて有利子負債は大きく増加する可能性がある。このため当社では資産のスリム化や事業運営の効率化、投資の見直しなどを進め、有利子負債の増加を抑制する方針としている。

（担当）杉浦 輝一・藤田 剛志・上野 倫久

■ 格付対象

発行体：Lotte Chemical Corporation

【変更】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2024年9月6日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：杉浦 輝一
主任格付アナリスト：杉浦 輝一
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年2月1日）、「化学」（2022年6月15日）として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) Lotte Chemical Corporation
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル